

釧路市立博物館特別展・私の博物館

## 「地図・絵はがき・観光ガイドで見る あの日の釧路・阿寒」展示の経緯

岩村 誠二\*

### 1. 展示のきっかけ

2013年春、釧路市内の豊文堂書店Webサイトの「本を繋げて」に道内旅行案内書について書いた文章を掲載していただいた。それが釧路市立博物館の石川孝織学芸員の目に止まり、「博物館に展示できるものがないか」との連絡をいただき、お受けした。

札幌在住のため、すぐに対面での打合せや現物資料を見ていただくことはできないため、連絡などはほぼ全て電子メールを利用して行った。阿寒国立公園関連などのパンフレットをデジタルカメラで撮影して少しずつお送りした。その他に、札幌市立中央図書館で道内の旅行関連書展示時の一覧資料をスキャンしたのもお送りしたと思う。

このあたりの時点で、博物館ホームページに掲載されている過去の「私の博物館」展示写真を見て点数が多い「トミカ」や「ビール缶」は、ほぼ同寸のものが多数ある展示であり、サイズがバラバラの資料展示の参考にならないことを認識していた。

### 2. 展示品選定行き詰まり

2013年初夏から夏にかけて、自宅中の絵はがき、パンフレット、書籍などを置いてあるところ全てを探し、私としてオススメのものや現 釧路市に関連しそうな資料を引っ張り出した。展示の話をしていただいた時点ではマンモスホールの一部しか埋まらないと思っていたが、収まり切らない量があることがわかった。自宅の各所に置いてある資料全てを見たのが、展示を行うことになって1番の収穫であった。9月、夏休み中に石川氏が自宅に来ていただけることが決まり、資料単品毎に展示したいものをリストアップし始めたが、どのように選定したらよいかすぐに行き詰まった。来宅されたときにとりあえず取り出したものを見ていただいて、パンフレットや絵はがきなどの小さいものはフレームに三角コーナーで貼り付ける展示手段があること（自宅ではA3～A1サイズのパンフレットやポスターそれぞれ1枚を1つのフレームに入れていた）とガラスケースを利用可能であることを

うかがった。また、行き詰まっていることを伝えて、いくつかのテーマを立ててそれに沿って選定することを相談したと思う。

### 3. テーマ毎の大物資料選定

2013年秋にテーマを当初10種程度立てて、所蔵している資料からA1、B1サイズの大きいものをピックアップしていった。この時点では展示スペース面積のことを考えていなかったため、選定したものを絞り込む必要があることが解った。また石川氏が所用で岩見沢にいられた時に、A2サイズのフレームにサンプルとして小さめのパンフレットと絵はがきを入れたサンプルを持参し見ていただき、配置の仕方を確認できた。また、この後にマンモスホール図面と壁面、ガラスケースの寸法情報を頂いた。

### 4. テーマ毎の概略配置決定

マンモスホール内のフレーム・ガラスケース配置は実際に図面を書いてみないとわからず、試行錯誤が予想されたので、フリーのWindows用CADソフト（AR\_CAD）を入手、試しに使ってみたが、Office系の作図ソフトと違ってインターネット上の解説だけでは歯が立たず、荒木豊和著「やってみよう！カンタンAR\_CAD」（日経BP社・2010年）を入手して使えるようになった。このツールによりマンモスホールの1/50全体配置図とテーマ毎の1/10ガラスケース、フレーム配置図を描いて縮尺通りの実寸で印刷できてマンモスホールに置けることを実感できた。

テーマ毎に利用したい最大サイズの資料寸法と割り当てたい配分比率からフレームやガラスケースの配置を考えた。全テーマ中で一番大きな、北海道庁殖民部/編「北海道渡航案内図 明治三十六年十二月」北海道庁、北海道協会支部（1904）が54×129cmあり、ガラスケース4）に収まることからこれを利用するテーマの位置がマンモスホール右奥になり、他のテーマの並び順を考慮して配置を考えた。なるべく多くの資料を展示するために他のテーマの並び中に別のテーマのものを押し込んだものがある。

\* 札幌市在住・道内資料コレクター

## 5. 個別資料の選定

A3サイズ以上の資料は1点1つのフレームを利用するため、フレームのサイズさえ決めれば良いがこれより小さい資料はフレームやガラスケースの棚に何点も配置することができる。当初はこれも図面化しようと思ったが、細かいところは実際に配置してみないとわからず、資料の不要な部分（開いた書籍の白紙ページや関係しない内容のページなど）の上に別の

資料を置くことができるので実寸台紙上に現物を置いてデジタルカメラで撮影して展示参考資料とした。2013年暮れからの正月休みに数テーマについて実際に配置して展示参考用写真を撮影した。これで手順が解り残りのテーマについても同様の作業を続けて行った。最終的に絞ったテーマは以下の通りである。

ID	テーマ名	テーマ選定の意図
I	北海道の中の釧路	北海道全体の地図などで釧路の位置づけを示す
II	阿寒国立公園	全域の地図や資料により阿寒国立公園をみる
III	釧路市街	市街図を中心に関連資料で過去から現在をみる
IV	昭和11年陸軍大演習釧路行幸	釧路行幸資料とこの時作成の全道鳥瞰図を示す
V	阿寒国立公園 初三郎形式横長鳥瞰図	主に戦前の阿寒国立公園を描いた鳥瞰図を示す
VI	根釧地域 初三郎形式横長鳥瞰図	戦前から戦後の根釧地域の鳥瞰図などを示す
VII	札幌オリンピック	避暑滞在者世代であれば予備知識のある内容を選定

## 6. 現地博物館での詳細採寸、打合せ

2014年3月末に炭鉱映画祭が開催され、また「釧路炭田の炭鉱と鉄道」展開催中であったので博物館を訪れて、マンモスホールでの実際の展示設備を確認し、担当の戸田恭司学芸員とも打合せを行うことができた。展示設備の詳細を確認できて資料発送のほしいの予定をお伝えした。阿寒国立公園指定が1934年であることはわかっていたが、この時に初めて2014年が80周年に当たることを知らされた。マンモスホールの展示に利用可能なスペースが想定より広がったことと合わせて、阿寒国立公園テーマの資料追加を考えた。開催中の「釧路炭田の炭鉱と鉄棟」展の展示でマンモス台座の入口側にもガラスケースを置けることが解り、紙の本の魅力という観点から大型本を取り入れることにした。

## 7. 展示資料最終選定と展示品一覧項目埋め

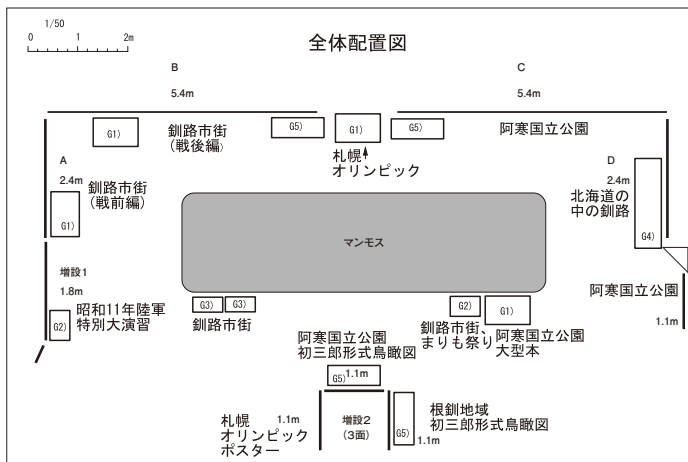
現地調査によりガラスケースを追加して、釧路市街テーマにも関連する資料をピックアップし、取りあえず4月中旬には展示図面と展示参考用写真を一応撮影し終えたが、展示資料一覧の発行年項目が

未記入なものが多数残った。

宿泊施設については所蔵の旅行案内書や道内版時刻表掲載の宿泊人員・宿泊料により推定することができたが、釧路市街の施設については釧路市ホームページにあった「釧路市総合年表」を見つけなければ諦めていたと思う。年表のおかげで5月末まで掛かったものの発行年を埋めることができた（ここまでは想定内のことで事前にアドバイスをいただいていたので、ほぼ計画通りに進めることができた）。

## 8. 資料発送後に想定外のことが続出

6月に入って、選定した資料を最終確認して下旬



に博物館に発送することができ、後は展示直前に博物館にうかがって展示の確認さえすれば済むと思っていた。ところが7月末展示開始2週間前の週末曜日、夕方自宅で食事中に戸田氏から自己紹介情報提供と挨拶文依頼のFAXが入ってきて多いに慌てた。確認したところ挨拶文などは元になる情報を提供すれば作成していただければいいとのことだったので、翌日には情報をお送りした。私はテーマに沿った資料の集合に価値があると思っていたので、困ったのはオススメのものを何点か提供してほしいとの依頼であった。

同じ時期にFMくしろの番組出演の問い合わせの連絡をいただき、こちらも想定外だったのですぐにはOKの返事ができなかった。展示準備中にFMくしろの方と打合せて、録音を編集しての放送で録音時には問いかけに答えれば良いと解り出演することにした。path-artという番組でアートの観点からのオススメのものを出して欲しいとの依頼があり、さらに困った。

9. フロアトーク、FMくしろ収録

展示では挨拶文は展示の入口にあたる場所におかれて、自己紹介情報は床上においたイーゼルに掲出していただいた。オススメのものについては8月下旬のフロアトークとFMくしろ収録時に口頭で説明すれば良いとのことで、展示資料一覧や展示参考用写



特別展ポスター

真を何回も見直してひねりだした。深く考えずにぐっとくるものと言っていたが、自己分析してある程度客観的に説明できるようになったのが2番目の収穫である。フロアトークの時にはわがまを

言って講堂に長さ15mほどの「北海道の車窓展望」図を展開して展示していたのが3番目の収穫であった。



写真1 展示会場

10. まとめ

展示の話をしていただいた時点では具体的なことは何もわからない状態であったが、展示やフロアトーク、取材対応をこなせたのは、いろいろアドバイスを頂いたおかげです。また所蔵している資料の価値を再認識することができました。ありがとうございます。

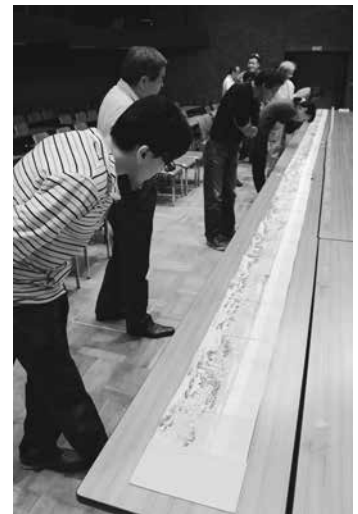


写真2 フロアトーク (8月23日開催)

思い出の品々やコレクションを持ち主の方の思いとともに紹介する「私の博物館」。圧倒的な資料の数々を紹介できたのは、提供者である岩村さんが適切なテーマの選定と綿密な展示のレイアウトを提示していただいたことに尽きます。担当者も学ばせていただきました。ありがとうございました。(戸田恭司)

開催期間:2014年7月26日(土)~10月5日(日)  
企画展担当者:戸田 恭司(主)・石川 孝織(副)

[主要展示資料]

I 北海道の中の釧路

資料名	編著者	発行所	発行年
貨物運働図表 昭和九年分	札幌鉄道局	札幌鉄道局	推定1935 (昭10)
北海道 1966	札幌鉄道管理局	札幌鉄道管理局	1966 (昭41)
若い大地 道東	釧路鉄道管理局	釧路鉄道管理局	1965 (昭40)
北海道案内開拓三十六年十二月北海道庁	北海道庁殖民部	北海道協会支部	1904.2 (明37)
北海道移住民 汽車東道新開拓券第20号	—	富山県	1907.4 (明40)
移住と移民の歴史展-北海道	鳥取市歴史博物館	鳥取市歴史博物館	2003.3 (平15)
開墾の栄全	北海道庁第五部	北海道庁第五部	1910.3 (明43)

II 阿寒国立公園

北海道国立公園 候補地帯案内図	工藤恭正/著	前原書店	1929.8 (昭4)
阿寒国立公園地帯案内図	前原好雄/著	阿寒国立公園観光協会出版部	1935.7 (昭10)
阿寒国立公園交通略図	阿寒湖荘	阿寒湖荘	1936 (昭11)
国立公園 阿寒を知る	片岡新助/著	寺田印刷所	1939.7 (昭14)
若い大地 道東	釧路鉄道管理局	釧路鉄道管理局	1963 (昭38)
北海道の温泉	矢吹勝二/編	日本交通公社	1959.6 (昭34)
阿寒国立公園 バスの旅	阿寒バス	阿寒バス	1965-70 (昭40~45)
昭和九年版 阿寒、屈斜路、摩周湖遊記	札幌鉄道局	札幌鉄道局	1934.6 (昭9)
舌辛村勢 昭和二年版	舌辛村役場	舌辛村役場	1927 (昭2)
国立公園阿寒湖畔 前田一英園を訪ふ	西川太治郎/編	西川太治郎	1941.11 (昭16)
阿寒国立公園候補地	北海道庁拓殖部	北海道庁拓殖部	1931.6 (昭6)
栗谷川健一の世界	栗谷健一著 第1出版センター	講談社	1982.11 (昭57)
北海道の車窓展望	日本国有鉄道	日本国有鉄道	1954 (昭29)
国立公園阿寒 阿寒ホテル全景をほがき	雄阿寒ホテル	雄阿寒ホテル	1935 (昭10)
神秘の国立公園 阿寒御案内	阿寒湖荘	阿寒湖荘	1934 (昭9)
阿寒国立公園 阿寒湖畔 阿寒水族博物館	阿寒水族博物館	阿寒水族博物館	1961-65 (昭36~40)
国立公園候補地 阿寒風景絵巻書	山浦温泉旅館	山浦温泉旅館	1932-33 (昭7~8)
阿寒観光ホテル	阿寒観光ホテル	阿寒観光ホテル	1958-59 (昭33-34)
観光案内 国立公園 阿寒 大雪山	中央印刷出版社	中央印刷出版社	1960-63 (昭35-38)
阿寒グラントホテル	阿寒グラントホテル	阿寒グラントホテル	1960-61 (昭35-36)
国立公園 阿寒湖へ	阿寒伊藤自動車阿寒遊覧部	阿寒遊覧部	1935.36 (昭10.11)
阿寒の観光地案内 阿寒湖 阿寒湖	阿寒伊藤自動車阿寒遊覧部	阿寒遊覧部	1953 (昭28)
観光北海道 1952年版	金野武/編	北海道新聞社	1952.7 (昭27)
まゆり祭り 四十周年の歩み	種子在改 他	阿寒観光協会	1989.10 (平1)

III 釧路市街

釧路市日本職業明細圖第二六六号 北海道	木谷彰佑/著	東京交通社	1932.6 (昭7)
昭和二十五年版 釧路港案内	釧路市役所港湾課	釧路市役所	1950 (昭25)
精密 釧路市街地図	岩文社/編	岩文社	1973.8 (昭48)
定期 釧路馬車	釧路畜産組合	釧路畜産組合	1933 (昭8)
王子製紙株式会社 釧路工場	王子製紙釧路工場	王子製紙釧路工場	1933.34 (昭8.9)
釧路観光案内	成田正徳/編	釧路商工会議所	1937.5 (昭12)
昭和十三年版 釧路商工案内	成田正徳/編	釧路商工会議所	1938.7 (昭13)
釧路港と産業	成田正徳/編	釧路商工会議所	1939.5 (昭14)

北海に誇る 釧路市新勝景 第五集	釧路国名所絵巻書刊行会	釧路国名所絵巻書刊行会	1934 (昭9)
月刊くしろ 創刊号	茂原秀雄/編	月刊くしろ社	1969.11 (昭44)
釧路 1963	釧路市総合企画/編	釧路市役所	1963.1 (昭38)
おかげさまで感謝の30年	青木商事/編	青木商事	1988.3 (昭63)
くしろ百選	釧路新聞社/編	釧路新聞社	1969.8 (昭44)
釧路市勢要覧	釧路市審議室企画課/編	釧路市	1987.8 (昭62)
釧路市副港 魚揚場	釧路市経済部/作	釧路市経済部	1959.7 (昭34)
特製品 御値表	釧路ステーションデパート	釧路ステーションデパート	1963.64 (昭38.39)
くしろの夜	竹老園 東屋総本店/作	竹老園 東屋総本店	1965 (昭40) 前後
郵船フェリー まりも 東京-釧路	ニュー-東宝・月世界/作	ニュー-東宝・月世界	1970 (昭45) 前後
釧路オリエンタルホテル	近海郵船/編	近海郵船	1972 (昭47)
釧路 丹頂鶴自然公園(お)	釧路オリエンタルホテル/編	釧路オリエンタルホテル	1971 (昭46) 前後
道東に飛躍する 総合センターホテルローヤル	釧路市教育委員会/編	釧路市教育委員会	1969 (昭44)
月刊クラフ道東 No.1 1971 創刊号	太平洋スカイランド	太平洋スカイランド	1975 (昭50)
東北海道の今昔	桜木柴乃/著	集英社	2013.1 (平25)
東北海道新聞編集局/編	北山権也/編	市民公論社	1971.10 (昭46)
東北海道新聞編集局/編	東北海道新聞社	東北海道新聞社	1948.10 (昭23)

IV 昭和11年陸軍大演習釧路行幸

北海道鳥瞰図	吉田初三郎/著	北海道庁	1936.10 (昭11)
北海道鳥瞰図	吉田初三郎/著	北海道統計協会	1950 (昭25)
行幸記念 郵便消印 釧路	—	—	1936.9 (昭11)
中隊区画 指定輸送道 警察宿舎要覧	北海道庁警察部/編	北海道庁警察部	1936 (昭11)

V 阿寒国立公園 初三郎形式構長鳥瞰図

国立公園阿寒案内図	古賀道一/著	古賀道一	1935.8 (昭10)
国立公園阿寒 美幌口	推定 美幌観光協会/編	美幌観光協会	推定1950 (昭25)
国立公園 阿寒	北原哲哉/著	北見市観光協会日本国有鉄道	推定1950 (昭25) 昭25(昭25)~昭25(昭25)
阿寒 阿寒国立公園案内図 昭和十四年版	吉田初三郎/著作	阿寒村役場	推定1953 (昭28)
阿寒 阿寒国立公園案内図 昭和十四年版	阿寒国立公園観光協会事業部/編	阿寒国立公園観光協会	推定1939 (昭14)

VI 根釧地域 初三郎形式構長鳥瞰図

釧路大観	小林唯仁/編	釧路商工会議所	1929.8 (昭4)
釧路国支庁 管内鳥瞰図	吉田初三郎/著	釧路国支庁	1936.9 (昭11)
阿寒国立公園の基地 釧路市	吉田初三郎/著	釧路市役所	1951 (昭26)
観光と産業の釧路国	釧路国地方行政協議会/編	釧路国地方行政協議会	1951.3 (昭26)
阿寒国立公園道の町 弟子屈 川湯温泉	吉田初三郎/著	弟子屈町役場	1954 (昭29)
厚岸町	吉田初三郎/著	厚岸町役場	1952 (昭27)
根室千島鳥瞰図	本城文雄/編	根室公論社	1934.5 (昭9)

VII 札幌オリンピック

第11回札幌オリンピック冬季大会 予定図	北海道/編	北海道	推定1968 (昭43)
氷雪賛歌	朝日新聞社/編	朝日新聞社	1972.3 (昭47)
札幌オリンピックが冬季大会 敵対スノーユールのご案内	—	—	1970 (昭45)
オリンピック英会話 (第3集)	根市G.高志/著	札幌市	1971.7 (昭46)
オリンピック放送のしおり	日本放送協会/編	日本放送協会	1971 (昭46)